

聞

2026年(令和8年)1月17日

飛驒牛乳の復活を
アピールする売り
場＝15日、高山市
岡本町、スーパー
マーケットバロー
高山店

飛驒牛乳

復活

バローPBで



昨年3月、惜しまれつつ生産が終了していた「飛驒牛乳」について、スーパーマーケットのバローは16日までに、同社のプライベートブランド(PB)商品として、飛驒地域で生産された生乳のみを使った「バローのおいしい飛驒牛乳」の販売を開始した。愛着を持たれていた「地元ブランドの復活」に、住民らが歓迎の声を上げている。

(箕浦由美子)

飛驒牛乳は飛驒酪農農業協同組合(高山市)が、長

愛着のブランド、消費者歓迎

年手がけてきたブランド牛乳。夏でも涼しい地域で乳牛を飼育し、新鮮なまま生乳を処理するため、口当たりがさらっとしながらもこくがあるとして人気を得ていた。

だが同組合の経営破綻で生産を断念。以降も組合員だった11戸の酪農家は、美濃酪農農業協同組合連合会(美濃市)に加入することで生乳を生産し続けていた。

飛驒牛乳の復活はバロー側の呼びかけがきっかけ。担当者は「お客さまよりたくさんのお声をいただいていた。弊社も飛驒の地域ブランドに思い入れがあり、飛驒地域の牛乳を販売する方法を模索してきた」。

美濃酪連側も期待に応えた。飛驒地域のタンクや生産ラインを他地域と分ける体制を整えたことで「飛驒牛乳」としての出荷が可能となった。

店頭には今月12日から並んでおり、東海エリアを中心に114店舗で取り扱っている。バローによると、このほかの飛驒牛乳関連商品の展開については、現在慎重に検討中とした。

高山市名田町の塚中都美子さん(74)は「飛驒牛乳は無くなって悲しかったので、本当にうれしい。おいしいから知人にお土産としてあげていた。私の好きなオレレンジ牛乳も復活させてもらえたら」と話した。